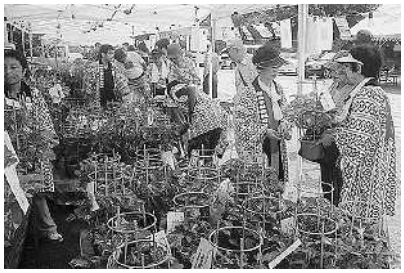
彩り涼やかに福祉朝顔市
そろいの法被が色添える



「きれいな花をつけましたね」「福祉のお役に立つなら」―赤や青、紫、茶色などの花を咲かせた朝顔を買っていく人たち。鎌倉市社会福祉協議会（大嶋文夫会長）主催のかまくら朝顔市は8月3、4の両日、鎌倉宮境内で開かれた＝写真。

二日間、好天に恵まれ、朝顔を求めに訪れる人たちが切れ目なく続いた。鎌倉の孫の顔を見に、東京からきたというお年寄りは「来年もきますから続けて下さい」と2鉢買った。

鎌倉社協の大嶋会長や上林出常務理事らの職員、同宮周辺の鎌倉第一社協民生委員（小泉智恵会長）参加団体の代表者ら、二日間で延べ約60人がボランティアで売り子として協力した。

鎌倉シーサイドテニスクラブが同社協に寄贈した祭りと描かれた法被は今回初めて着用され、朝顔市の盛り上げに色を添えた。

鎌倉宮のほか他地域の祭りでも朝顔を売り、目標の8百鉢を完売。売り上げは百万円を超えた。各種経費を差し引いても、1鉢千円くらい参加の福祉施設に還元できる見込み。

地域と結びついた福祉活動の一環として、市内の福祉施設の人たちが育てた朝顔市は05年から始まり、3年目になる。

鎌倉朝顔会などの支援で、発芽させた苗を施設のお年寄りや知的障害者らが世話してきた。福祉の人たちが挑戦しての鎌倉の朝顔づくりは、全国的な話題になっている。「取り組みの方法を教えてほしい」といった問い合わせが鎌倉社協に相次いでいる。

ひと
創業160年「温古堂」を飛躍させてきた6代目
山田宗宏（やまだ ときひろ）さん

「夢中で走ってきたような気がして。確かに日々、創業160年の重みを感じてきたかもしれない。少しでも気をぬいたら、信頼を損なうこともあるから、愚直にして感謝と誠実の心で生きてきた。先祖のお陰と思っている」

鎌倉市大町1丁目、神仏具・香・香炉の「温古堂」は1847年（弘化4年）の創業である。江戸幕府12代将軍徳川家慶のころで、20年後には幕府は滅び、明治維新にと時代は移った。

4代目までは仏師をなりわいとしていた。明治の神仏分離令による廃仏毀釈で、仕事がなくなり鎌倉彫に活路を見出していったのが、当時の仏師たち。

5代目は鎌倉彫を主な仕事にする一方で、神仏具や文房具、下駄などを片隅に置いた。現在の神仏具の専門店に衣替えして、軌道に乗せてきたのが、いまの6代目・宗宏さんである。

「歴史のある鎌倉に住む人たちは知識、経験の豊かな方が多く、専門店でなければ信用が得られないと思った。力をつけるために国内外の生産地などにも出向いた」

通りに面して鉄筋コンクリート3階建ての店がある。各種の仏壇から香の類などが陳列されている。

30年前の77年、創業130年のときにいまの店舗を新築した。左奥には第二店舗もある。00年（平成12年）に建てた82平方㍍の現代仏壇・仏具のギャラリーである。

日本の伝統的な商品をそろえる一方で、生活様式の変化に対応できるものも備えている。

「商いにとって品質、価格、品揃えは大切で、その積み重ねが信用を生んでいくと思う。ときに際限もなく商品が増えていくこともある」

店名は論語の「温故知新に由来する。故は「古」と同じで、昔のことを研究して、新しい事を学ぶ意味が込められている。

「伝統に甘んじていてはお客さまも離れていく」との思いでオリジナルの線香「鎌倉五山」を生み出したのが30年ほど前。

「鎌倉の香り」の線香とともに人気があるが、商品化までに多くの時間をかけた。

「実るほど頭の下がる稲穂かな」―謙虚の大切さを説いた言葉だが、子どものころ、父から教えられて育ったという。温厚な人柄で知られる。

やがて7代目となる長男・哲也さん（29）に仕事をまかせ、地元自治会などにも忙しい。雅子夫人、お孫さんら6人家族。71歳。（N）

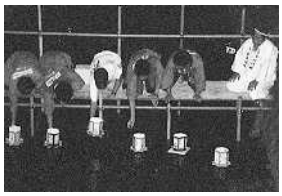
人出27万、ゴミ18トンの山
花火翌朝の清掃協力に3百人

8月10日の第59回鎌倉花火大会は約2千9百発が打ち上げられ、最後の水中花火とスターマインにひときわ大きな歓声と拍手がおこった。鎌倉市観光協会の発表では、昨年と同じ27万の人出だった。

花火大会の清掃ゴミ収集量は昨年の約3・6㌧増の18㌧あった。ボランティアによる清掃活動が行われ、当日は市内のNPO団体や会社員などのほか、東京・埼玉・千葉などから高校生や大学生らが清掃活動に当たり、警備、誘導なども含め約270人が協力した。

翌朝午前7時からの海岸清掃には約3百人が参加＝写真。土曜とあって、一家で近所の子どもたちを引き連れての参加もあった。材木座に住む主婦は「子どもに自分たちの住んでいるところをきれいにすることを教えたい」と2人の小学生とゴミを集めていた。

灯ろう流しやズンドコ踊り
にぎわった深沢夏まつり



夕やみの中、光を放ちながら滑るように川を下る灯ろうに手を合わせる人たち。第4回「ふかさわ夏まつり」（石井満会長）で8月4日、鎌倉市常盤の深沢学習センター近くの新川で灯ろう流しが行われた＝写真。

先人の遺徳を偲び、平和を祈願しようとはじめられ、集まった約150個の灯ろうには、願主、慰霊者の名前と「家内安全」「無病息災」などが書かれていた。等覚寺の服部融宣住職の願文の読み上げ、川を清めたあと灯ろうに火がともされ、水面に浮かべられた。

川の一部をせき止めて、200㍍ほどの区間の水量を増加させるとともに、川下で、流れてきた灯ろうをすくい上げ、川を汚さない工夫をしていた。7月に、県立深沢高校の有志などが川を清掃した。

4、5日の祭りの期間中、朝市、みこしの練り担ぎや市立深沢小校庭で模擬店、ブラバンの演奏、深沢ズンドコ踊り大会などもあった。

夏の風物詩ぼんぼり祭り
せみ時雨の中、にぎわう

鎌倉の夏の風物詩ぼんぼり祭りが8月7日から9日、鶴岡八幡宮境内で行なわれ、多くの人でにぎわった＝写真は松原省吾さん写す。

立秋の前日から源実朝生誕の8月9日まで市近隣の著名人の書画をぼんぼりに仕立てて、境内に掲げる。1938年に鎌倉ペンクラブや在住の名士によってはじめられ、69回目。画家の平山郁夫さん、大津英敏さん、石原慎太郎東京都知事、松沢成文県知事、解剖学者養老孟司さんらの大小3393個のぼんぼりが飾られた。ぼんぼりにろうそくが灯るころは、カメラマンや夕涼みの列がつづいた。日本舞踊や短歌・俳句の奉納、茶席、生け花などの展示もあった。

『はしご車！すごいね』
鎌倉・大船消防ふれあい広場

「消防ふれあい広場07」が7月29日鎌倉消防署、8月3、4両日大船消防署で行われた。両消防署で、はしご車の体験乗車や放水体験など消防、救急関係の車両や施設の公開があった＝写真。鎌倉消防署には親子ら約350人が訪れた。はしご車は鎌倉に24㍍、大船に37㍍伸びる車両が各1台ずつあるが、小学生以上を対象にした体験乗車は順番待ちができるほどの人気で大喜びだった。

足・靴の悩み無料相談
大船 ロビンフット靴店

婦人靴・紳士靴・子供靴と品揃えは豊富

靴が合わない、歩くと足が痛いという人は、「大船ロビンフット靴店」へ。無料足診断で、足を計測し、足の形状や健康状態を“カルテ”にして、ぴったりの靴を選んでくれます。

また、中敷きの製作や、靴の加工で、足と靴の悩みに応えてくれます。

こんな悩みはぜひ相談を
外反母趾、扁平足、タコ、ウオノメ、巻爪、ハンマートゥ、膝関節症、股関節症、腰痛、リウマチ・糖尿病・麻痺で履く靴がない。子どもがよく転ぶ。歩き方がおかしい。

営業時間／10時～19時
定休日／なし
大船駅東口徒歩3分
☎0467(42)6322

無料足診断券
“足のカルテ”プレゼント
ご利用時に掲示してください。
大船 ロビンフット靴店

CHINESE-RESTAURANT
大切にします……「心」からのおもてなし。
中国料理 華正楼（かせいろう）
●鎌倉店／鎌倉長谷大仏前 ☎0467(22)0280㈹ ●横浜中華街／本店 ☎045(681)2918㈹ 新館 ☎045(661)0661㈹

☆朝日新聞は受験生の必読書です。
今年の大学入試では
260大学、419問題が
朝日新聞より出題されました。
取扱紙　朝日・日経・朝日学生新・日刊スポーツ・他・諸紙
ASA 鎌倉小町販売
鎌倉市小町1－15－2
☎0467(22)3236

ゆみ中医漢方クリニック
婦人科・皮膚科
月経痛・月経過多・月経過少・月経不順・月経前緊張症等の漢方治療を月経周期にあわせて行っています（周期療法）。
逗子市小坪1－18－4
TEL 0467-22-9184
http://www5e.biglobe.ne.jp/~yumicyui/
診療時間
午前：9:00～11:30（火～土）
午後：14:00～16:30（火・木・土）
予約制・各種健保扱・自費診療有

漢方診療
外科・内科
●診療時間　午前 9:00～12:00　午後 15:00～18:00
●休診　日曜・木曜・祝日　水曜午後（定期往診）
鎌倉・常盤の田中医院
院長 田中迪夫
鎌倉市常盤648 ☎0467(32)1315